

名鉄グループエリア 魅力発見マガジン

MEITETSU

Wind

Take Free | 12
2022

SHIPPO

★
尾張七宝



守り、攻め、受け継がれる
地域の宝。

Precious Stories

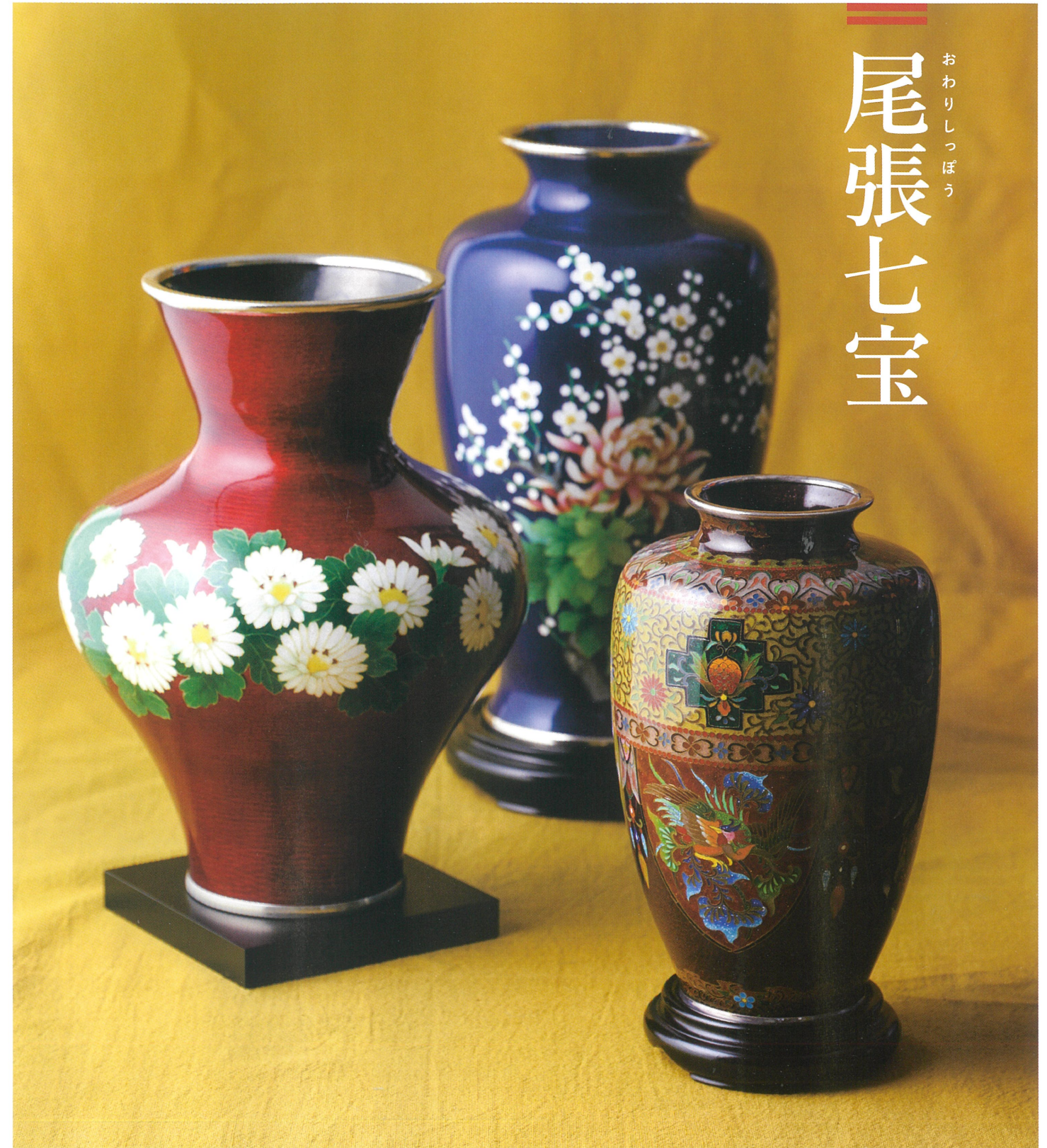


七宝焼の中でも国内外で高い評価を得た「尾張七宝」。

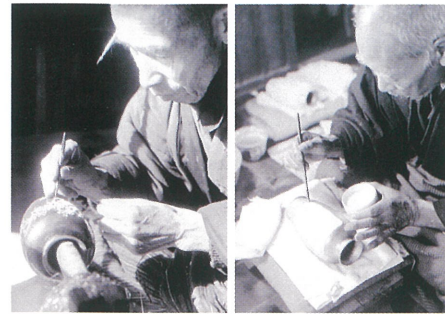
7世紀より以前に、その技術が海を渡って日本にやって来た七宝焼。かつては各地で作られていたが、今日、産地として現存するのは3カ所ほどに。約190年の歴史があり、伝統的工芸品にも指定された「尾張七宝」。しかしその火は他の工芸品と同じように、今まさに消えかかっているところだった。

尾張七宝

おわりしっぽう



全国の七宝焼で唯一、 伝統的工芸品に指定。



江戸時代末期から明治時代にかけて発展した「尾張七宝」。最盛期には約200軒もの窯元があったそう。



特殊な道具はほとんど必要なく、省スペースでも作れることから始める人が多かったとか。



金属を成形する素地には、銅を用いることが多い。

金属の素地に釉薬を焼き付けて作られるものの総称、七宝焼。その名前は仏教の経典に記された「瑪瑙・真珠・珊瑚・マイエ・瑠璃・金・銀」という7種類の宝物に由来している。七宝焼の中でも、特に愛知県あま市七宝町と名古屋市の一部で製造されるものを「尾張七宝」と呼ぶ。

「以前は日本各地で七宝焼が作られていましたが、産地として現存するのは東京、京都とこの尾張のみ。そして『尾張七宝』は七宝焼としては唯一、伝統的工芸品に指定されています」そう誇らしげに語るのは、加藤七宝製作所の三代目、加藤芳朗さんだ。『尾張七宝』最大の特徴は、模様の緻密さと色の表現域の広さ。有線七宝と呼ばれる技法が成せる図柄と、釉薬を何度も焼き重ねることで生まれる色の深みが魅力ですと話す。『尾張七宝』の各窯元には秘伝の釉薬レシピがあり、昔は門外不出。他の窯元の釉薬と混ぜ合わせても上手く焼けないのだそう。

緻密な絵柄を可能にした 有線七宝の技法。

七宝焼には多くの技法が存在するが、「尾張七宝」は有線七宝という技法を用いることが基本だ。

まずは銅や銀など金属製の素地に下絵を描く。次に細いリボン状の銀線をピンセット



植線の習得には10年程度かかるといわれる。



美しい色を出すには釉薬の水分調整が重要。

トで形作り、輪郭に沿って糊付けする。この植線という作業こそが有線七宝といわれる由来だ。高度な技術が必要な植線こそが、「尾張七宝」の緻密な絵柄を生み出している。

その後、砂状の色ガラスに水や糊を混ぜた釉薬を、銀線で囲まれた模様を筆やヘラを使って入れていき、焼成する。これらを繰り返すことで、独特の深みがある色になっていく。「尾張七宝」の場合、完成まで少なくとも7回程度は焼成するという。

仕上げに表面を研磨することも「尾張七宝」の特徴だ。磨き上げることで、凸凹だった表面が滑らかになり艶が出る。「個人的には有線七宝は研磨とセットでないと、魅力が大幅に下がると思っています。磨くことで、植線した銀の輪郭が煌めいて、模様の美しさがより際立つんです」と語る加藤さん。工程数が多く手間が掛かることから、有線七宝の技法は尾張以外ではあまり広まらなかったそう。



加藤七宝製作所 代表取締役
伝統工芸士

加藤 芳朗

Kato Yoshio

Instagram



昭和54年(1979年)、名古屋市出身。愛知県立芸術大学美術学部デザイン科を卒業後、二代目である父・勝己さんに師事。平成22年(2010年)に三代目を継承。「名古屋伝統工芸わざもん衆」参加、名古屋芸術大学で非常勤講師を務めるなど、活動は幅広い。平成30年(2018年)に伝統工芸士認定。

加藤さんが七宝焼の道に入ってから約17年。この間にも「尾張七宝」を取り巻く環境は、刻一刻と変化してきた。「これまでも緩やかに右肩下がりが続いたんですが、コロナ禍で急速に悪い方向へ。インバウンド客の減少で百貨店や小売店向けの製造卸の部分は9割減。今も大きく回復はしていません」と顔を曇らせる。

しかしながらコロナ禍以前より、新しい七宝のカタチを模索してきた加藤さん。業界全体が下降していく中、新しい取り組みに関しては手応えを感じていた。「商品開発が僕のライフワークになっていて、平成25年(2013年)頃、商品化に成功した小さなお骨入れは、弊社の主力商品になりました。ほかにもネイルアートの素材なども開発。「尾張七宝」という枠に捕らわれすぎず、柔軟に新商品は考えます」と自信を覗かせる。

「尾張七宝」を残していくためには、従来のB to Bの販路だけではなく、個人消費を対



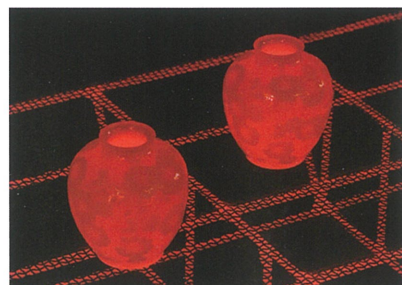
手元供養に適した「ミニ骨壺MATOU」。左から、「さくら(88,000円)」、「七宝瑠璃青(62,700円)」。



「尾張七宝」の深みのある色彩をフレーク状のネイルアート素材として商品化。



昔は研磨に砥石を使っていたが、現在では機械化、ダイヤモンドペーパーが主流に。



700~900°Cで、その都度適した温度、焼き加減で焼成する。一回の焼き時間は数分程度。



作品の店頭販売をしているほか、工房見学も可能(要事前連絡)。完全予約制の体験講座は、植線と施釉ができる本格派コースだ。

加藤七宝製作所

名古屋市西区香春町4-31
☎052-531-1382 9:00~18:00
土日祝休、12/29~1/4休
上小田井駅から相互直通運転
地下鉄鶴舞線庄内通駅下車 徒歩約7分



伝統を継承する一方で、「尾張七宝」にこだわりすぎず、表現の幅を広げ「伝え方と伝わり方」を意識。加藤七宝製作所にしかできない美しさを日々追いかけている。

大打撃を受けた業界全体。回復のカギは「日常」にあり。

象としたB to Cの流れを作ることも大事だと語る。「知られていないということは逆にチャンスだと思っていて、ファンを増やすために、まずは伝えていく。情報発信が大切」と、大学時代の友人たちとホームページを立ち上げ、SNSを利用した取り組みにも力を入れてきた。「いかに日常に七宝を取り入れられるかが僕の中でのテーマです。「尾張七宝」って綺麗だねってことが少しずつ広まっていけば、何年か先には大きな力になるんじゃないかな」と「尾張七宝」の未来を担う加藤さんの挑戦は、まだまだ続いていきそうだ。



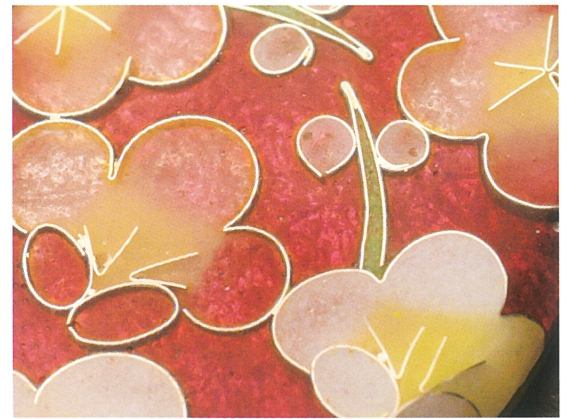
有名飲料メーカーの「若手職人支援プロジェクト」にて製作された作品(写真右、左は作業途中のもの)。「尾張七宝」を代表する「梅詰め」柄に爽やかなグリーンを合わせた。

とある作品に魅了され、「尾張七宝」の世界へ。

加藤七宝製作所は、加藤芳朗さんの祖父・亮三さんが現七宝町に開業。程なくして名古屋市内に移った。三代目の芳朗さんは、そもそも跡を継ぐ気はなかったという。「元々ものづくりには興味があり、大学では工業デザインを専攻していました。その頃は『尾張七宝』をやるなんて全く考えていなかった。大学3年生の時に家業と向き合うタイミングがあり、そこで出会ったのが並河靖之の作品でした」と当時を振り返る。

並河靖之は明治期の日本を代表する七宝作家のひとり。京都を拠点に活動した並河は有線七宝の技法を極め、世界に七宝焼の名を知らしめた。「作品ひとつで家が建つなんてものを実際に見て、究極の美しさを知りました。普段見てきた七宝焼とは別物だな。こんなに美しいものも自分でも作るチャンスがあるなら挑戦してみたいと思ったんです」と目を輝かせた。

25歳にして「尾張七宝」の世界へ飛び込んだ加藤さん。



加藤七宝製作所が得意とする伝統的デザイン「梅詰め」。

「苦労したことはすべてです」と苦笑い。最初の5年間は基礎的な技術を得るための訓練期間だったそうだが、自由に作品を作れるようになった今でも一人前ではないという。「技術的なところは日々精進。多分一生かけて習得するものですね」と話す。

しかし、加藤さんが修業を始めた頃には、既に斜陽産業だったという「尾張七宝」。当時20軒ほどあった窯元は、現在はほぼ半分にまで減ってしまった。



左から、完成するまでの作業工程。素地に下地と下絵つけ、植線したのち、施釉と焼成を繰り返し研磨するまで。大きさによっては数か月かかることも。

の間にルビーの色を代表する釉薬・赤透は、透明感があり深みのある赤色が特徴。「外国人の間ではルビーの色を表す最上級」"ピジョンブラッド"と呼ばれ、大変人気でした」と内山さん。一時は盛り返したものの、その後、徐々に売れなくなっていたこともあり、今日では職人の減少、後継者不足が問題となっている。



写真左から、「7並 雪の結晶(32,700円)」、「7並 桜(35,600円)」。あま市七宝焼アートヴィレッジ内で販売。

明治27年(1894年)には、「遠安工業補習学校」という七宝焼の専門学校が作られ、七宝焼の一大産地に。「七宝焼原産地」と呼ばれ、多くの外国人が買い付けに訪れるようになった。しかし第二次世界大戦中は贅用品が禁じられるなど、製造中止を余儀なくされたことも。その後は進駐軍の土産として再び人気となる。「尾張七宝」を代表する釉薬・赤透は、透明感があり深みのある赤色が特徴。「外国人の間ではルビーの色を表す最上級」"ピジョンブラッド"と呼ばれ、大変人気でした」と内山さん。一時は盛り返したものの、その後、徐々に売れなくなっていたこともあり、今日では職人の減少、後継者不足が問題となっている。



写真左から、「飾皿サンタの贈り物」、「飾皿クリスマスリース」各5,940円。

海外人気を支えた「尾張七宝」最盛期。

七宝町で「尾張七宝」を伝えていく。



約190年の歴史を有する「尾張七宝」の魅力を観て・触れて・学んで・体験する総合施設。さまざまな企画展やイベントも開催している。

あま市七宝焼アートヴィレッジ

あま市七宝町遠島十三割2000
☎052-443-7588 9:00~17:00
月曜休館、祝日の翌日休館(翌日が月曜の場合その翌日)、12/29~1/3休館
入館無料、常設展示室観覧料:高校生以上310円、小中学生100円
七宝駅下車 徒歩約25分、または名鉄バスセンターから名鉄バス「安松」下車 徒歩約15分

PRESENT ▶ P13

昭和44年(1969年)、一宮市生まれ。平成6年(1994年)から七宝町の職員となり、「七宝町郷土資料館(現在は閉館)」に勤務。平成20年(2008年)より、「あま市七宝焼アートヴィレッジ」の学芸員となり、今年4月に施設長就任。校外学習の生徒たちや団体客の案内、体験教室での指導も担当するほか、外部での講演活動も行っている。

あま市七宝焼アートヴィレッジ 施設長

内山 智美

Uchiyama Tomomi



樹齢約350年、県の天然記念物「羅漢榎」を有する神社。明治20年(1887年)、七宝製造業者の二派閥を和解させるため、梶常吉の功績を称える碑を建立。昭和37年(1962年)には林庄五郎を称えた碑も建てられた。



あま市七宝町遠島宮西424
☎052-443-7588(あま市七宝焼アートヴィレッジ)
七宝駅下車 徒歩約30分、または名鉄バスセンターから名鉄バス「安松」下車 徒歩約10分



遠島八幡神社
七宝製造業者間の団結を促した信頼のシンボル。



七宝町が誇る技術を残したい、その声から誕生した「あま市七宝焼アートヴィレッジ」が担う役割とは。

「尾張七宝」を後世へ伝える、住民の願いと使命を背負って。



有線七宝である「尾張七宝」の特徴、植線(うゑいせん)を施した花瓶。

「ここ七宝町は、『尾張七宝』の製造が盛んだったことから名付けられた地名なんです」と教えてくれたのは、「あま市七宝焼アートヴィレッジ」で施設長を務める内山智美さん。特産品から地名が決まる例は、全国でも珍しい。七宝焼の始まりは、紀元前の古代メソポタミアや古代エジプトまで遡る。その技術は欧州からシルクロードを通り、中国・朝鮮半島を経て、7世紀頃には日本に伝わっていたとされる。天保4年(1833年)にオランダ船が運んできた七宝焼の皿を見て感銘を受けたのが、「尾張七宝」の始祖・梶常吉という人物だ。現在の名古屋市中川区に生まれた常吉は、家業の鍍金業を営む傍ら書物で知った七宝焼に興味を持ち、製造を

「尾張七宝」の起源は「皿を割ったこと」?

志した。しかしながら当時は製法を知る手段がなかった。そこで常吉はオランダで作られた七宝焼の皿を入手。「その大変貴重な品を、なんと自ら叩き割ったんです。そうして銅を素地にしていること、その上にガラス製の釉薬を焼き付けていることなどを解明。研さんを重ね、同年に小盃を完成させました。その後、現在の七宝町遠島にいた林庄五郎が常吉の弟子となり、この地域で七宝焼の製造が急速に広まっていく。のちに尾張地方で生産された七宝焼は「尾張七宝」と呼ばれ、慶応3年(1867年)のパリ万博出品をキッカケに世界で知られることとなる。



ユーモアを交えながら解説してくれた内山施設長。

七宝焼の原産地・遠島へ入る目印として明治28年(1895年)に建てられた。当時としては珍しくローマ字で「Shippoyaki Toshima」と彫られていることから、「尾張七宝」を求めて多くの外国人が訪れていたことが想像できる。



あま市七宝町安松南辻田2540
☎052-443-7588(あま市七宝焼アートヴィレッジ)
名鉄バスセンターから名鉄バス「安松」下車 徒歩約4分



七宝焼原産地道標
外国での人気が見て取れる貴重な資料。

「尾張七宝」だけじゃない！
新スポットが続々と誕生。

01

あま市の魅力を
フレンチで食す。



「あま市の自家製トマトとバジルのソースパスタ(1,100円)」、
スープとミニサラダ、ドリンク付き。

「あま市七宝焼アートヴィレッジ」内にあり、あま市の特産品や有機野菜を取り入れたカジュアルフレンチ。なかでも、地元で栽培された小松菜を練り込んだ「あま市」の Pasta が押し。ドリンクの種類も豊富で、店で手作りするレモンジャムのスッパ、オーガニックのコーヒーなども。店内はアンティーク家具で統一され、シックで落ち着いた雰囲気です。

Bistro Amaゴリラ

あま市七宝町遠島十三割2000 あま市七宝焼アートヴィレッジ内 ☎052-433-3015
11:00~16:00 月曜~木曜休、12/26~1/5休



04

素敵なインテリアの
カフェが駅前誕生。



ドーナツ型フィンランシェ「Tigre(1個150円〜)」と、「クラシックプリン(540円)」。

プチポテトとランチドリンク付きの「サンドウィッチランチ(1,090円)」。

「尾張意匠」が手がけるカフェ。ショールームも兼ねた店内は緑が多く、どこかモダンでスタイリッシュ。リラクセスできる空間でのんびりしましょう。食パンメーカー「エースベイクング」協力で、毎日食べても飽きない味をコンセプトに専用食パンを開発。サンドウィッチやホットサンドのほか、持ち帰り専用1.5斤サイズも販売。あま市の無農薬珈琲豆のみ扱って、自家焙煎所「HUYGGE COFFEE」のオリジナルブレンドコーヒーもオススメです。

SIPPO MEET UP CAFE

あま市富塚二反地13-1 美和ビル1階 ☎052-718-2712 9:00~17:00(ラストオーダー) ※土曜・祝日は16:00(ラストオーダー) 日曜休、12/28~1/5休

02

おまつの方を祀る
生誕の地。



前田利家の正室・まつ(芳春院)を祀るお寺。かつて敷地内にあった犬養家で生まれたまつは、前田利昌の養女となる4歳までをこの地で過ごしました。芳春院の位牌がある本堂を見学希望の際は、事前に電話連絡を。また、中日ドラゴンズなどで監督を務めた星野仙一さんの供養碑があり、東京五輪で金メダルを獲得した野球日本代表監督・稲葉篤紀さんが訪れたことでも知られています。

瑞円寺

あま市七宝町沖之島北屋敷7 ☎052-444-2128

05

地元作家たちの
新たな
発信拠点に。



今年5月、自宅にある築115年の蔵をリノベーションしてオープン。焼き物好きのオーナー・犬飼真由美さんの希望で、家族の協力を経てギャラリーへと改装しました。展示内容は「尾張七宝」はもちろん、ガラス細工やニット、木版画など「ジャンルにこだわらず展示したい」とのこと。12月8日~11日は、企画展「新春を寿ぐしづらえ」を開催。しめ縄や花飾りなどお正月飾りを展示・販売します。企画展期間外でもギャラリーの見学は可能です。



館内は2階建て。今後は常設展示もあるかも。



父の作品も
展示していただける
趣ある空間です。

gallery WAN

あま市七宝町沖之島北屋敷1 ☎090-8268-3460
10:00~16:30 不定休、12/30~1/9休



あま市 あまし

名鉄名古屋駅~七宝駅へのアクセス

- 名古屋本線須ヶ口駅で津島線に乗り換え約20分
- 片道運賃：300円



人口:88,633人(2022年10月現在)
平成22年(2010年)に七宝町・美和町・甚目寺町が合併し誕生。
尾張四観音のひとつ、甚目寺観音があるほか、
日本一の生産量を誇る刷毛や「尾張七宝」で知られています。



03

生みそ量り売りと
みそ×パンのコラボ。



ここでしか買えない生みそなどが購入できる、みそ量り売りコーナー。

香り華やかな生みそは絶品です!



あま市七宝町安松郷2742

PRESENT ▶ P13

あまの蔵

☎052-444-2561
10:00~16:00
月曜休、12/30~1/4休



海部のくちどけ

☎052-433-3128
10:00~18:00(売り切れ次第終了)
※12/31は12:00(売り切れ次第終了)
月曜休、1/1~4休



日頃の感謝を込めて謝恩価格にて期間限定発売

2023年 迎春1DAYフリーきっぷ

2023年 通用期間 1月1日～1月9日 いずれか1日

名鉄電車1日乗り放題 + 特別車両券(特別引換券)1枚付

発売金額 大人お一人様 2,200円

「迎春1DAYフリーきっぷ」を購入して名鉄電車で「初詣」「初日の出」「お買い物」に出かけよう!

2023年新春謝恩 迎春1DAYフリーきっぷ



■発売期間/12月1日(木)～31日(土)
■利用期間/2023年1月1日(日・祝)～9日(月・祝)のいずれか1日

日頃の感謝を込めて、謝恩価格にて前売限定で発売する「迎春1DAYフリーきっぷ」。今回は名鉄電車1日乗り放題に加え、利用日当日に有効な「特別車両券(ミュートケット)引換券」が1枚付きます。さらに、神宮前・金山などのミュープラット6施設や名鉄百貨店本店・一宮店、日本モンキーパークなど、沿線の施設や店舗で使える優待券も付いて、大人お一人様2,200円。初詣や冬休みのおでかけなどに便利でおトク。ぜひ、この機会にご利用ください。

名鉄百貨店神宮前 ミュープラット神宮前

Hello! サンタさん

サンタさんがやってくる!

12/24(日)

11:00～13:00(12:00～12:30) 13:00～18:00(17:00～17:30)

※サンタさん登場時間(12/24)

11:00～11:30 11:30～12:00 12:00～12:30 12:30～13:00 13:00～13:30 13:30～14:00 14:00～14:30 14:30～15:00 15:00～15:30 15:30～16:00 16:00～16:30 16:30～17:00 17:00～17:30 17:30～18:00

ミュープラット神宮前 冬の応募deチャンス

■期間/12月12日(月)～25日(日)

神宮前駅直結の商業施設「ミュープラット神宮前」では、12月12日から宿泊ギフト券や豪華な家電などが抽選で当たる「冬の応募deチャンス」を開催。税込700円以上のお買上で応募できます。また、12月24日にはサンタさんがやってくる「Hello! サンタさん」と題したイベントも。当日、税込1,000円以上のお買上で、サンタさんと一緒に写真撮影ができます!



ゴッホ・アライブきっぷ



■発売期間/12月3日(土)～2023年3月5日(日)
■設定期間/12月10日(土)～2023年3月5日(日) ※設定除外日:休館日

芸術性とエンターテインメント性を兼ね備えた、五感で楽しむ新しい没入型の展覧会「ゴッホ・アライブ」が金山南ビル美術館棟(旧名古屋ポストン美術館)で開催されます。これまでに世界で850万人を超える人々を魅了した人気コンテンツが、ついに名古屋に上陸。ゴッホの名作が力強いクラシック音楽に乗って、巨大かつ鮮明な画像で生き生きと再現されます。おでかけには、往復乗車券や入場券、ミュープラット金山で使えるクーポン券などがセットになったきっぷがおおすすめです。

Created and produced by GRANDE SENSORY4

ゴッホ

世界で 850万人を動員した 没入型展覧会

GRANDE EXPERIENCES Van Gogh Alive アライブ

名鉄バスセンターからジブリパークへ 直行バス運行中!



名古屋駅から愛・地球博記念公園(ジブリパーク)へのおでかけには、乗り換えの必要がない直行バスが便利です。直行バス開設記念として、車内で記念カードのプレゼントもあります(なくなり次第終了)。乗車券のご購入は、「CentX(セントエックス)」がおすすめ。いつでもどこでも好きなタイミングで購入することができます。なお、近距離高速線は立席のご乗車ができません、満席の場合はご乗車いただけませんのでご注意ください。



おでかけNEWS

食に関する新たな小売店舗 「名鉄商店」オープン!



株式会社名鉄生活創研は、12月1日、名鉄百貨店本店メンズ館1階に「新しいスタイルのお土産屋さん」 「名鉄商店」をオープンします。「地域を食べる、地域をアゲる、地域へ還す。」をコンセプトとし、沿線地域の魅力や価値に目を向け、このエリアの生活文化や街自体を楽しむ「きっかけ」を提供することを目指します。店内の商品は「うれしいを、アゲる。」をテーマに、愛知県・岐阜県の事業者とコラボレーションし作り上げたオリジナルの商品が約70点並びます。商品にはそれぞれに開発の経緯やストーリーがあり、お客さまは店舗スタッフとのコミュニケーションの中でこれを感じていただけます。ご来店をお待ちしております。



名鉄商店 MEITETSU SHOUTEN



商品例:「うなぎ割烹 みかわ山水亭」と「妙香園」の名鉄商店限定コラボ商品。「香るうなぎ茶漬」2人前4,800円。



Christmas Fairy ナナちゃん



■期間/12月14日(水)～25日(日)

名鉄名古屋駅前の名駅通りを中心に今年も「メイエキルミ2022」が始まりました。各施設では、ツリーなどのクリスマスデコレーションやさまざまなイベントを開催。12月14日～25日は「Christmas Fairy ナナちゃん」と題し、イルミネーション装飾をしたナナちゃんが登場。年に一度のクリスマスには大切な人とケーキを囲んで幸せな時間を過ごしてほしい、そんな想いから今年もナナちゃんがケーキの妖精に変身。同期間、数量限定でナナちゃんとコラボしたケーキ、パフェを名鉄グランドホテルで販売します。ナナちゃんのドレスを再現したケーキ、パフェはSNS映え間違いなし!



写真上から名鉄グランドホテル18階の「SKY LOUNGE203」にて期間・数量限定のケーキ「ナナNoel(テイクアウト)」1,770円、ケーキドレスVer.の「ナナNoelパフェ(イートインのみ)」2,000円。

でんしゃ旅 日間賀島ふぐづくしプラン



■設定期間/2023年4月2日(日)まで

名古屋から約1時間の日間賀島では、旬を迎えた美味しいふぐが楽しめます。このプランは、名鉄電車乗り放題のフリーきっぷと名鉄海上観光船(河和港または師崎港⇄日間賀島港・篠島港)の往復乗船券、ふぐづくし料理がセットになっています。お値打ちな日帰り昼食プランは、大人お一人様12,300円～。近場の離島へおでかけし、冬の味覚の定番・ふぐを思う存分にいただきます。



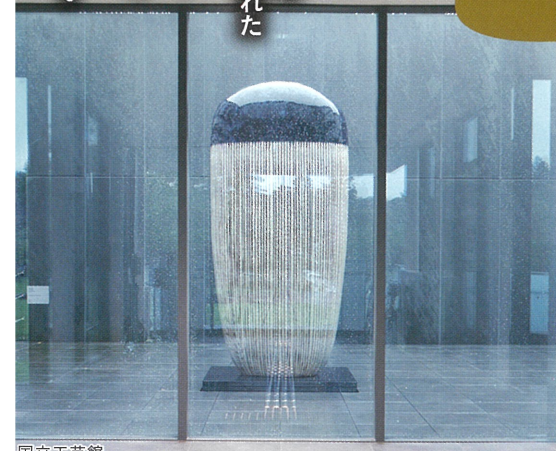
※当広告からのお申込みは承っておりません。詳しくは専用パンフレットをご覧ください。



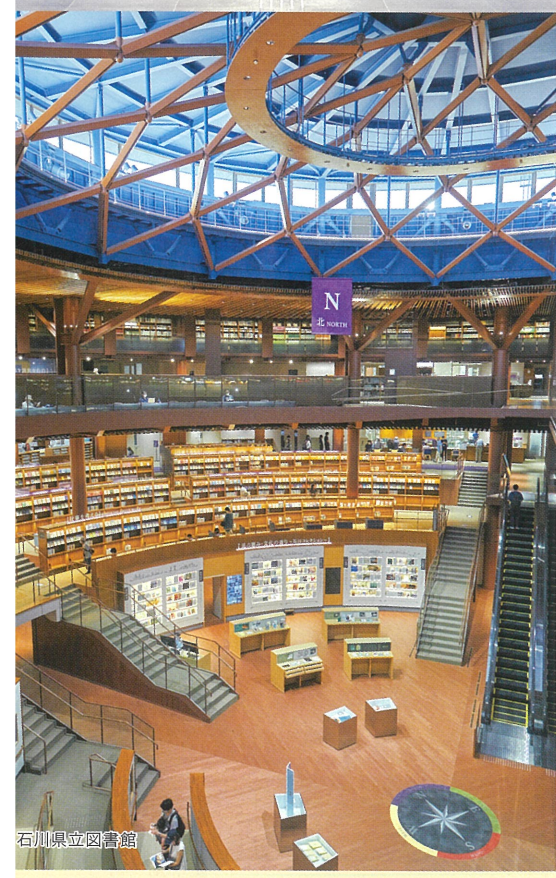
金沢

冬の

加賀百万石の城下町としての歴史を持ち、藩政期から育まれた美意識が息づく街。近年誕生した文化施設から、今どきなショップが点在するレトロな商店街まで、古くて新しい魅力がたっぷり。



国立工芸館



石川県立図書館

加賀温泉郷・石川旅へ

自然あふれる癒やしの温泉地や、城下町ならではの歴史や文化が息づく金沢市街。寒くなるにつれ、さらに魅力を増す石川県を旅しよう。

全国旅行支援「いしかわ旅行割」キャンペーン
石川県への旅行が最大11,000円お得になるキャンペーンを開催中! 詳しい内容はホームページで確認しよう。
電話でのお問い合わせ
☎076-225-7675
(「いしかわ旅行割」キャンペーン事務局)
※支援金の上限に達し次第受付を終了します。



石川県観光情報総合サイト
「ほっと石川旅ねっと」



©石川県観光連盟



加賀温泉郷

山代、山中、片山津、あわづの4湯からなる北陸屈指の温泉地。個性豊かな湯に浸かり、カニグルメに舌鼓。山中漆器などのとっておきの工芸品に出合う、温泉街散歩も楽しい。



山代温泉 内子街

Wind Information

今月のプレゼント

- 1 P6掲載**
あま市七宝焼
アートヴィレッジの
オリジナルグッズセット&
招待券をペア3組に
- 2 P7掲載**
あまの蔵の
「七宝味噌・醤油
詰め合わせ」を
3名様に
- 3 P12掲載**
ゲルハルト・リヒター(2018年)
photo kw
©Gerhard Richter 2022 (07062022)
豊田市美術館の企画展
「ゲルハルト・リヒター」
招待券をペア5組に
- 4**
名鉄が舞台になった
運転ゲームが登場!
大迫力の実写映像で
爽快感あふれる高速
運転を体験しよう!
©2022 Sonic Powered Co.,Ltd.
「鉄道にっぽん!
Real Pro 特急走行!
名古屋鉄道編」を
1名様に

応募方法 名鉄ホームページ、または右記QRコードよりご応募ください。プレゼントの発送をもって発表にかえさせていただきます。
▶締 切:12月20日(火)

プレゼントへの
ご応募はこちら



S | N | S | で | 発 | 信 | 中 | !

Precious Stories取材時の様子や、リアルタイムなおでかけ情報など、誌面ではご紹介できなかったおすすめ情報を、InstagramとFacebookにて毎週配信。また、YouTubeでは尾張七宝に携わる加藤さんのインタビュームービーを公開しています。ぜひフォロー、登録の上、お楽しみください!



1月号のPrecious Storiesは 「知多木綿／朝倉駅」です。12月29日の発行をお楽しみに!

名鉄グループ提供番組

※番組内容が変更となる場合がございます。

<p>Finder・TRIP</p> <p>【東海テレビ】 金曜22時52分より 放送</p> <p>12月の放送予定</p> <p>2日・9日・16日・23日 稲沢編</p>	<p>サタデーデラッシュ</p> <p>【CBCテレビ】 日曜12時54分より 放送</p> <p>12月の放送予定</p> <p>4日・11日・ 18日・25日</p>	<p>音も心も</p> <p>【テレビ愛知】 月曜～金曜 17:26～17:30 日曜 22:48～22:54</p> <p>12月の放送予定</p> <p>1週目 小牧市、 2週目 春日井市、 3週目 刈谷市、 4週目 知立市</p>	<p>【中京テレビ】土曜11時45分より放送</p> <p>12月の放送予定</p> <p>3日・10日・17日・24日 あま市編</p> <p>9年ぶりに七宝味噌の蔵元夫妻と再会! 念願が叶って去年、味噌の直売所をオープンしたんだって! 以前出会った方が夢を叶えた姿に会えるのって嬉しい。七宝味噌のソフトクリームもパンもめっちゃウマ!! ほかに七宝駅前のおしゃれカフェなど、新しいお店が増えてワクワクする街、あま市サイコー!</p> <p>by ゴリ</p>
--	---	--	---

＜プライバシーポリシーについて＞ お客さまの個人情報は、プレゼントの発送及び、個人を特定できない統計データ作成にのみ利用いたします。また、ご応募いただいた個人情報を第三者へ提供することはありません。※掲載内容は変更または中止になる場合があります。詳しくは各店舗・施設へお問合せください。最新の情報は公式サイト等でご確認の上、おでかけください(すべて2022年11月22日現在のものです)。掲載価格はすべて税込価格です。

メイジノオト

「メイジノオト・ミニ」は、皆さまのココロや暮らしをちょっとだけ豊かにする、「明治村」に関する情報をお届けするコーナーです。

第9回 スタンドグラス

明治時代後半に国内でも製造されるようになった「スタンドグラス」。明治村では「聖ザビエル天主堂」のものが人気です。実はこのガラス、2枚合わせのペアガラスで、内側の色ガラスの裏面に白色塗料で植物の模様が描かれています。このため、外側の透明ガラス越しに見ると、窓も壁と同じ「白」で統一された印象を与え、中に入ると一転、鮮やかな色ガラスに模様が陰影で浮かび上がります。クリスマスの時期だけ点灯するスタンドグラス・ツリーと一緒に楽しみください。



明治をみつめる。
①をみつける。

メイジノオト



わかる と かわる



自分は偏見も差別もしてないから関係ない。
そう思っている、気づかないうちに
誰かの人権を傷つけているかもしれません。
話をしてみる。インターネット以外でも調べてみる。
そうやってまずは一歩、
自分から歩み寄ってみませんか。
今まで気づかなかった気持ちが、見えてくるかも。
それがきっと、あなたの行動や社会を変えていく。

知ることからはじめよう。人権のこと。

